



「鹿児島・シンガポール交流会議」の開催 ～鹿児島県とシンガポールとの30年以上にわたる交流～

鹿児島県 PR・観光戦略部国際交流課 主査 丸山 貴志

「鹿児島・シンガポール交流会議」について

鹿児島県とシンガポールは、直行便開設^(※1)を契機として、1982年に「第1回鹿児島・シンガポール交流会議」を開催して以来、同交流会議を2年に1回、鹿児島とシンガポールで交互に開催しています。この会議は、双方の交流について協議を行うもので、会議で合意した交流内容に基づいて、30年以上の長きにわたり、経済、観光、芸術・文化、青少年など幅広い分野における交流を展開してきています。

シンガポール外務省のサム・タン・チン・シオン国務大臣を団長とするシンガポール代表団を2018年1月10日から12日の日程でお迎えして、鹿児島では4年ぶりに「第19回鹿児島・シンガポール交流会議」を開催し、さまざまな関連イベントも交流会議に併せて実施されました。

第19回交流会議の概要

1月11日に開催した会議では、鹿児島県から三反園訓知事、柴立鉄彦県議会議長、経済団体の代表など7名が、シンガポール側からサム・タン国務大臣や貿易産業省、政府観光局、国際企業庁、人民協会などの政府機

関の代表者7名が出席しました。

会議では、これまでの交流の成果や今後の交流について意見交換を行い、農畜産物の輸出振興、観光交流の促進、双方の企業の進出・投資に向けた情報交換、青少年交流団の相互派遣、霧島国際音楽祭・講習会へのシンガポールからの講習生受入など、9項目の交流プログラムを進めていくことで合意しました。

サム・タン国務大臣は、約30年前に青少年交流事業で鹿児島を訪問した経験をお持ちのほか、シンガポールで開催した第16回、鹿児島で開催した第17回交流会議にも参加されており、会議の中で、国務大臣からは「鹿児島には観光客を誘致する潜在的な魅力があると思っている。」といった好意的な発言をいただくなど、双方のきずなの深さ、歴史を感じる機会となりました。

会議に続いて行われた知事主催レセプションでは、知事トップセールスとして、2017年9月の「第11回全国和牛能力共進会」で総合優



日本一の鹿児島黒牛を振る舞う
(左：三反園知事 右：サム・タン国務相)

勝した日本一の鹿児島黒牛を振る舞いました。

また、2017年10月に約3週間、シンガポールのJRカフェにおいて「鹿児島フェア」を開催し、県産品を使ったカフェメニューの提供、観光セミナー、県産品PRイベント、物販コーナーでの県産品販売などを実施したところですが、その際のPRイベントで協力いただいた島唄歌手の方の演奏による「ワイド節」^(※2)に合わせて、知事や国務大臣をはじめ出席者が踊りを踊るなど大盛況でした。



交流会議出席者による集合写真撮影

関連イベントの概要

シンガポール代表団の来鹿期間中、シンガポール政府観光局主催による「シンガポール観光セミナー・意見交換会」が開催され、また、代表団に県内観光地などを視察いただく「県内観光地PRツアー」や「県産品産地視察」を実施しました。さらに、県内ホテルの協力により、シンガポールの食を県民に楽しんでもいただく「シンガポールの食フェア」も開催されました。

1月11日の午前中に開催された「シンガポール観光セミナー」では、シンガポール政府観光局から、修学旅行先としてのシンガポールの魅力などについて説明いただいたほか、シンガポールへの修学旅行を実施している県内学校の体験談の発表などがあり、参加者の多くを占めた県内学校関係者は熱心に耳を傾けていました。

そして、シンガポール代表団の方々には、1月10日と12日の2日間の日程で、県内観光地PRツアーとして、本年が「明治維新150周年」という節目の年であることを踏まえて、鹿児島県の伝統工芸品である「薩摩切子」^(※3)の製造工房、日本でトップクラスのシェアを誇る甲冑工房、薩摩藩英国留学生記念館などを見学していただきました。

甲冑工房の視察では、代表団の方々が甲冑の試着もを行い、代表団からは「一生忘れられない貴重な経験ができた」との声が挙がりました。

また、シンガポール貿易産業省および国際企業庁の方々には、1月12日に、上記PRツアーとは別行程で、焼酎蔵と全国有数の黒酢工場を案内し、鹿児島が誇る一流の農畜水産物をはじめとした県産品の生産現場を見学していただきました。(当初は、鹿児島黒牛の牧場も見



甲冑工房の視察の際に、甲冑を試着してのシンガポール代表団の集合写真



黒酢工場見学の様子

学予定でしたが、非常に珍しい降雪の影響により中止となりました。)

今後の交流に向けて

交流会議の中で、サム・タン国務大臣からは「さまざまな交流の中で、早期に取り組むことが可能な分野もあれば、長期的に取り組まなければいけない課題もあるが、双方の関係者が責任を持って、それぞれの分野で着実に取組を実施していくことにより、鹿児島側とシンガポール側が一緒になって大きな目標を達成することができると思う」とのコメントをいただきました。

これまで、鹿児島県とシンガポールとの間では、青少年の分野での交流が中心となって展開され、それにより、サム・タン国務大臣のように交流事業などで鹿児島に来られた経験者が政府機関の要職に就いているケースが出てくるなど、人的資源の面でのアドバンテージがある一方、今後、経済交流や観光交流をより活発にしていくという課題があります。

財政的な制約もある中で、人的資源の面でのアドバンテージも活用しつつ、30年以上にわたって継続している交流があります。今後は、双方にとって意義のある交流になるように協力をしながら進めていくことが重要であると考えています。

(※1) 日本航空が、1980年4月～1990年3月まで直行便を運行していました。

(※2) 鹿児島県奄美群島徳之島において盛んな闘牛を唄った島唄。

(※3) 薩摩藩が幕末から明治初頭にかけて生産したガラス細工。明治初期の混乱で生産が途絶えていましたが、約30年前から復刻生産されています。